

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0670400969		
法人名	株式会社 ジェイパック		
事業所名	グループホームもも太郎さん 米沢		
所在地	山形県米沢市通町5丁目3-46		
自己評価作成日	令和4年 11月21日	開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス第8波と終息にならず、益々孤立感で入居者様も生きがいを見失わないよう、ご家族様との『絆』をより一層強くしていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 12月 19日	評価結果決定日	令和 5年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事に力を入れており、職員が交替で献立作り・買い物・調理まで行い手作りにこだわった食事を提供しています。利用者から野菜の下処理や後片付けなどの手伝い参加があり、リクエスト・行事食・郷土食・手作りおやつなどを取り入れ大変喜ばれており、食欲増進にも繋がっています。中でも芋煮会はコロナ禍の為事業所内で利用者だけの会食になっているが季節を感じる恒例行事となっています。高齢化・高介護度化また長引くコロナ禍の影響もあってレクリエーション・行事など出来なくなった事もあり利用者・職員共にストレスを感じているが、少しでも刺激のある元気な生活を送ってもらい笑顔が見たいと職員はアイデアを出し合いチームワークで取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社の「理念」「接遇スローガン」を基に、日々の生活のスローガンに近づけるように、心掛けています。	グループホーム独自の理念の他に法人合同の「理念」「接遇スローガン」を朝礼で唱和し、新任職員には紙面で配布して共有している。支援の土台として、迷ったときは基本に戻る言葉として捉えて実践に繋げ、元気な利用者だけではなく車いすの方も外出して一緒に笑顔が見られるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には体調に配慮し参加するようにしています。6月～10月までの朝の町内清掃には入居者様の体調を見ながら職員と一緒に参加しています。今年は、入居者様や職員体調を崩されたり、人員不足で、参加が出来て来ていませんでした。	以前は地域の文化祭・公園の草取りや事業所の芋煮会交流などに利用者も一緒に参加していたがコロナ禍の為草取りには職員のみが参加している。町内会に加入し、回覧板や町内会長との交流を継続して地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症については理解されているが、グループホームもも太郎さんの施設としての理解はされてきている。また、町内会長やご近所の方も声を掛けてくださる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催していますが、コロナ過のため文書にて報告をしております。	今年度はコロナ禍の為文書会議となっており、管理者をはじめ職員代表者で話し合っって原案を作り、米沢社会福祉協議会から意見をもらって報告書を作成して市担当者に提出している。利用者・職員の状況、活動・事故報告、次期の予定など幅広い内容となっている。	家族代表・町内会長・民生委員などの他のメンバーにも会議報告書を配布して意見をもらい、双方向的な会議になるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市より介護相談員の訪問を受け入れしておりますが コロナ過のため、今回は訪問はありませんでした。	市担当者に運営推進会議報告書を提出して意見をもらっている。生活保護・成年後見人制度を利用している利用者があり、関係機関とは連絡を密にしている。コロナワクチン集団接種にも協力があり、協力医の往診で5回終了している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠は夜間帯だけで、ドアのチャイムは設置してはけません。自由に動けるように安全面には気を付けております。又、全職員が身体拘束廃止の指針に基づき、理解に努めています。</p>	<p>「身体拘束廃止に関する指針」を作成して利用開始時に家族等に説明し、理解を得ている。職員代表による身体拘束・事故防止委員会を3ヶ月毎に開催して検証し、年間研修計画に必須項目として全職員で研修して、言葉遣いなどで気になったときは互いに注意し合い拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内に教育委員会を設置しており、委員を中心とした勉強会を行い周知徹底しております。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内に成年後見制度を活用している入居様もあり、理解を深めることが出来ています。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時は、ご家族様が納得して頂けるような説明を行っております。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>担当職員を付け、ご家族様が面会時の時や、意見箱などを設置し要望をお聞きしていますが、意見を言って下さるご家族様は少ないです。出た意見は全職員共有し反映させております。</p>	<p>条件付きであるが家族等との面会が出来るようになり、久しぶりの対面での会話は互いの安心と笑顔に繋がっている。定期的に発行する「季刊えがお」で利用者の様子を知らせ、誕生月には担当職員から個別のコメントを送付している。家族等には小さな事でも包み隠さず報告し、相談しながら方針を決めて良好な関係を築いている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常に、職員の意見を聞いたり、また、目安箱設置し良い環境作りが出来るよう反映させています。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場環境に努め、何かあれば上司に報告したり、毎月の本社会議で報告しております。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で30分間の勉強会を行っています。又、外部研修に積極的に参加し、職員間で情報共有しております。	教育委員会が立てた年間研修計画を基に必修項目を決めて内部研修を毎月開催し、外部講師を招いての技術研修や再開された外部研修に参加して、復命書により全職員で共有してレベルアップに繋げている。資格取得にも法人全体で奨励し、職員も意欲的に挑戦している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	米沢市や市内各病院主催のオンライン形式に参加してサービスの質に取り組んでおります。	再開された外部研修会に職員が参加し、情報交換などの交流を行っている。毎月、法人県内の管理者・教育委員会会議が開催され、意見交換や新たな情報を得る場となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に事前面接を行い、ご本人様の想いや要望をお聞きし、不安を軽減できるように、コミュニケーションや会話を通し、そのことをケアプランに反映出来るよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接(アセスメント)の段階でご家族様のサービス利用に対する不安や要望をお聞きし、より良い関係の中でサービスが提供できるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接(アセスメント)やその後の関わりを通じてニーズを見極め、過不足の無いサービス提供に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の生活意欲を引き出す為に、ご本人様の出来る事、したい事を尊重し、家事などでご本人様と職員がお互いに協力し合える体制づくりに努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の絆」を理念とし、面会時や電話、ニュースレターなどでご家族様との密な情報の交換などで共有を図っています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との交流を引き続きできるよう、気軽に足を運んで頂ける環境を整えたり、働きかけを行っております。また、コロナ過で毎月ドライブへ行ったりはできませんが、行けるときは声掛けし支援しております。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が日々楽しく生活して頂ける様に、職員が様子を見ながら共に支え合える関係が作れるように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も御本人様や御家族様から相談があればその都度対応し必要に応じて解約後のフォローにも対応しております。また、契約終了後も御様子について担当マネージャーから情報を頂く事もあります。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前からの生活歴や趣味嗜好などをご本人様やご家族様からお聴きし、これまでの生活を尊重した生活環境づくりに努めています。また、それらの情報を職員間で共有しております。	高齢化・高介護度化により出来なくなった事もあり、言葉が苦手な利用者には職員はそばに寄り添い穏やかにゆっくり話して、表情などから思いや意向を汲み取っている。「何が食べたい」の問い掛けには意欲的な返事があり、なるべく応えるようにしている。新たな情報は申し送りノートなどに記入し、職員全員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様の面会時等において、これまでの生活様式や環境などを意識して聴き取るように努めてはおります。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりが無理なく生活できるよう、その方の生活リズムを把握し、自由に暮らして頂ける様に努め、日々の生活を通じて、心身状態の把握に努めております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと、3ヶ月おきのカンファレンスを行い、その結果をもって生活支援計画を更新しております。	毎月のモニタリング(観察)・3ヶ月毎のカンファレンス(検討会)には担当職員を中心に全職員参加で話し合い、家族の希望や主治医・薬剤師の意見を取り入れ、利用者目線の介護計画を作成している。更新した計画は家族等に来てもらい面談し、遠方の方には電話で説明して意見交換し共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は生活支援計画を基に記入し、日々の変化や気付いた点などを記入して職員間で情報を共有しております。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	6月～10月の第一日曜日に入居者様の体調を考慮し、町内清掃に参加しております。ご本人様、地域の方との作業での触れ合い、豊かな気持ちで生活できるようにしていますが、コロナ過で参加出来ませんでした。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者様、月1回訪問診療に来て頂いています。他科受診は御家族様や職員が通院支援を行っています。急変時にはかかりつけ医院と連携し指示を仰ぎ、適切な医療を受けるようにしています。	かかりつけ医受診については、利用者全員が入居時施設協力医の往診に変更し、往診日の前に全員の健康状態をFAXで知らせている。結果は受診ノートにメモを取り、その後、個人記録に写し職員は共有している。医師にはオンコールで24時間対応してもらい安心して生活している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないので、介護職員が日々の様子を把握し、気づきをもって確認し、変調時にはかかりつけ医院に報告し指示を仰ぐようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は2日に1回面会に赴き、その都度状態を聞き状況把握に努めています。退院に向けての病院関係者やご家族様とのカンファレンスを行っています。お歳暮やお年始などの挨拶でも関係づくりを努めています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合はかかりつけ医院と御家族様とも十分な話し合いを持ち、厳しい部分や穏やかな部分もある中で、当施設が出来る範囲でやれることを説明し理解を得ています。</p>	<p>利用開始時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を説明し、利用者・家族等の理解を得ている。重度化が見えてきた時は、家族に様子を見てもらい医師・家族等と話し合いを重ね、他施設に移設するなど、利用者にとって良い方法を見つけ家族の方針に従って支援している。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所で教育委員会を設置し、ヒヤリハットや事故防止の対策をしています。急変時や事故発生時についてのマニュアルを作成し、対応ができる様になっています。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立会いのもとで年1回避難訓練を実施しています。また、事業所だけで2ヶ月に1回火災以外の緊急災害についての訓練を実施し安全に避難できるように取り組んでいます。災害マニュアルを作成しており、職員間で共有しております。</p>	<p>今年度は、消防署立ち合いの訓練と防災会社職員が参加しての訓練を実施している。今後、想定を変えた訓練をしたいと考えている。プチ防災として独自の訓練を行い、様々な災害に対応出来るよう取り組んでいる。</p>	<p>訓練実施要項の他に、講評や不備に気付いた事なども記録に残し、改善された事が分かるような書面作りを期待したい。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保にも努めております。丁寧な言葉掛けやその方に合った声掛けをし羞恥心、自尊心にも配慮しております。</p>	<p>「あなたの笑顔は私の鏡です」が活かせるよう認知症を理解し、一人ひとりの対応に心を配り、気付きを得られるよう心掛けている。人生の先輩である事を頭に置いて、口調が強くないよう気を付け尊厳を守った言葉掛けで、自尊心を傷つけないよう対応している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の生活が和やかで、ゆったりとした空間になるよう心掛け入居者様が御自分の思いや希望を自由に言葉にでき、御自分で決められるよう支援しております。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様御一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、日々の生活を楽しく過ごして頂ける様心がけています。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みを尊重し、共に考え、皆様が季節に合った衣類になるよう心掛けています。2ヶ月に1回理美容店の訪問をお願いし、身だしなみに気を付けております。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と楽しく会話しながら、調理する食材の下準備、テーブル拭き、食後の片づけなど各入居者様の出来る事に合わせてお願いして行って頂いております。	献立・食材の調達・調理を職員が行い、野菜の下処理など利用者に手伝ってもらい提供している。「おいしい?」「味はどう?」と聞き食事に関心を持ってもらえるように配慮している。楽しい行事食は暦に合わせて作っている。今は職員がマスクをはずさない対応をしているため一緒に食べていない。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、水分量を把握し確認しながら、少なければ声掛けをしたり、苦手な食材があれば代替等を準備し提供しております。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが確実に出来る様、洗面所までの移動、歯磨きへの支援、声掛け、働き掛けを行っています。義歯の方についても夜間の入れ歯洗浄剤による洗浄を行い清潔を保っています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の心身状態に合わせて、定時でのトイレ誘導、声掛けを行っています。ご自身でトイレに行かれる入居者様については排泄後に確認を行っています。声掛けの際には羞恥心に配慮し、ゆっくり話すようにしております。	排泄チェック表の活用で一人ひとりの状況に合わせたトイレ誘導や排便管理を行っている。声掛けの時は何気なく誘うよう羞恥心に配慮している。おむつの方でも立位が出来ればトイレを使ってもらい、出来るだけ長くトイレ排泄が出来るよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立にはできるだけ食物繊維を取り入れた食材を使用するよう工夫をしております。また、主治医との相談、協力を頂いております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日提供しておりますが、体調を考慮しながら、一人一人の好みに合わせた温度などで、気持ちよく入浴して頂ける様に配慮し、見守りや介助などで安全に入浴できるよう支援しています。	風呂は毎日沸かしており、希望で週2～3回入ってもらっている。入浴時はあざ・ひっかき傷など無いか状態を見ている。滑って転倒などしないよう注意し、出来ないところを手伝い、1対1の介助で会話しながら入浴を楽しんでもらっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を知り、休息したい時には安心して休息できるように支援しております。夜間は居室の温度や湿度確認、就寝状況の確認をして気持ちよく眠れるように配慮しております。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様全員の薬を把握し、服薬前には日付と名前をご本人様の前で読み上げ、服薬後は薬袋を一週間保管しております。また、誤薬防止の為に朝の薬袋には赤線、夕の薬袋には青線を引き誤薬防止に努めております。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事を通じて、気分転換を図っております。入居者様個々の力やペースに応じて、家事や、体操・塗り絵等のレクリエーションに参加して頂き、楽しみを持ち、役割意識を持って過ごして頂いています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じられるよう、近隣を散歩したり、花見・ツツジ・新緑・紅葉ドライブに出掛けたりしております。	コロナ禍以前であれば季節の花見ドライブ・散歩などに出かけていたが、今は周りの状況を見聞きしながら花見散策、紅葉狩りなどに出かけて外気浴を楽しんでいる。外出時の写真を家族等に送り元気な姿に安心してもらっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族に連絡し、御希望の物、必要なものがあれば、相談し、上立替にて購入させて頂いております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の思いや希望にて、御自宅や御家族様に電話を取り次いでおります。また、テレビ電話を持ち込みお話しをされているご家族様もおります。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、装飾も季節毎変え、温度や湿度管理に気を使い、過ごしやすいうに工夫をしたり、また、清潔に過ごせる環境づくりにも努めております。	みんなが集まるホールは、季節が分かるように装飾を施し、毎月のイベントで季節を感じている。コロナ禍にあり換気や消毒にも注意して、マスクを付けられない利用者には、つい立を使ってもらうなど気配りしている。食席も話の合う人達でまとまる居場所にもなっている。年齢も高くなり運動もしなくなったと感じ、出来る人達には体操で冬を乗り切ってもらいたいと考えている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様複数で一緒に過ごしたり、お一人でゆったりと過ごしたり、皆で体操やテレビを観たりと思いの過ぎ方ができる空間づくりに努めております。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から過ごしてきた環境に近づける為、仏壇やテーブル、家具などなじみの物を持って来て頂くよう入居時にお話ししております。また、遠方の御家族様には面会に来て泊まれるような配慮もしております。	居室の間取りが同じでないためベッドは全室に備えているが、ソファや整理ダンスなど部屋に見合ったものが設置されている。利用者は馴染んだ身の回り品を持ち込み、自分らしい部屋を作りゆっくと過ごしている。コールベルやセンサーの利用もあり安心して過ごせる居室となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下、トイレには手すりが付いており、御自分で安全に移動ができる方には、居室やトイレがわかりやすいように目印をつけ、御自分で移動できるようにしております。			